

今月の ソリューション事例

NTTデータ

バチカン図書館における歴史的な手書き 文献のデジタルアーカイブ事業に参画

NTTデータは、バチカン図書館と、同館に所蔵されている2世紀から20世紀に書き残された約8万冊、約4千万ページに及ぶ人類歴史遺産とも言える手書き文献のデジタル化および長期保存を目的とした事業における初期契約を、2014年3月20日に締結し、調印した。初期契約は、約3,000冊の手書き文献を4年間でデジタル化し、その費用は約23億円となる。将来的には約8万冊全ての手書き文献をデジタル化する大規模プロジェクトとなる見込みだ。

バチカン図書館は世界最古の図書館の一つで、人類遺産とも言えるべき歴史的図書重要なコレクションを収容している。現蔵書数は110万を超えると言われており、その中には、マニュスクリプト (manuscript) と呼ばれる貴重な一点もの手書き文献が約8万冊もある。これら手書き文献には、華麗な装飾が施された「装飾写本」と言われる美術的価値の高いものから、当時の歴史、法律、哲学、科学および神学について著された研究的価値の高い貴重な文献が大切に保管されている。これら手書き文献は、厳重な保存管理下にありながらも時間の経過とともに日々劣化が進んでいるものも多く、解読不可能となることが危惧されていた。

こうした中、バチカン図書館より、これらの手書き文献について、日本が持つ優れたデジタルアーカイブ技術により、長期保存をし、後世への永続的な文化の継承を実現したいとの要望を受け、日本の国立国会図書館のデジタルアーカイブシステムの構築、デジタルアーカイブサービス「AMLAD」の提供等で先進的な実績・ノウハウを有するNTTデータが技術的検証を進めてきた。そしてこの度、バチカン図書館と初期契約を締結し、本事業に本格的に参画していくこととなった。

NTTデータ 公共システム事業本部
第三公共システム事業部 TEL：050-5546-2651

NTTエレクトロニクス

映像コーデックおよびL2スイッチが 将棋公式棋戦生中継に採用

NTTエレクトロニクスの映像コーデック「HV9100シリーズ」とL2スイッチ「GigaBeeシリーズ」が、本年3月7日に浮月楼（静岡県静岡市）で行われた将棋公式棋戦「第72期名人戦」A級順位戦リーグ最終局において、スカパーJSATが提供する多チャンネル放送「スカパー！」の「将棋界の一番長い日 完全生中継 ～第72期・A級順位戦リーグ最終局～」の生中継に採用された。今回は、TOKAIコミュニケーションズと共に浮月楼からスカパー東京メディアセンターまで約200kmの距離を、将棋の5対局および解説を含め複数のHD映像同時伝送を実現した。

HD映像9chの同時伝送には、既存の映像伝送回線に加えて、TOKAIコミュニケーションズEthernet専用線サービスBroadLine（1Gbps×2回線）とNTTエレクトロニクス製のHV9100シリーズとGigaBeeシリーズを使用し、低遅延・高品質なIP伝送方式を構築した。具体的には、浮月楼からスカパー東京メディアセンターまでの光伝送区間（1Gbps×2回線）をGigaBeeシリーズによりリングネットワーク構成とし、回線と伝送機器の冗長化を実施。また、Ethernet Ring Protection Switching（ITU-T G.8032標準準拠）機能により、伝送回線に障害が発生した際は自動で高速に伝送経路を切り替えたいという要望に対応した。

NTTエレクトロニクスのデジタル映像・システム事業本部部長の笠原久嗣氏は、「多チャンネル放送のリーディングカンパニーであるスカパーJSAT様にご採用いただけたことを大変誇りに思います。今後も、“お客さまから信頼されるバリューパートナー”として、多様な通信方式やマルチデバイス環境においても高画質・高品質な映像サービスを提供できる製品群をご提供していきます」と語っている。

NTTエレクトロニクス システム営業部
TEL：045-414-9150

NEC

コロンビアの電力系通信インフラ事業者に 光伝送用 100Gbps トランスポンダを納入

NECは、コロンビアの通信インフラ事業者である Internexa（インターネクサ社、本社：メデジン市）に、光伝送用100Gbps対応トランスポンダ（中継器）を納入した。

スマートフォンやタブレット端末の普及、LTEサービスの開始により通信トラフィックが急増している。ラテンアメリカにおいても、ブロードバンド回線の整備が急がれており、携帯電話加入者数の急増に伴うアクセスポイントの増設や、トラフィックの増加に伴う光通信網の拡張など、通信ネットワークの強化が進められている。Internexaでは、コロンビアをはじめベネズエラ、エクアドル、ペルー、ブラジル、チリ、アルゼンチンなどラテンアメリカ9ヵ国、28,000kmにおよぶ光ファイバ網整備計画を推進中であり、今回、NEC製トランスポンダはこの敷設プロジェクトの一環として導入された。

今回納入したトランスポンダは、NECが開発した100Gbps用デジタルコヒーレント技術およびDP-QPSK変調方式を採用し、最大96波までの大容量伝送を実現することができる。導入にあたっては、Internexaが現在使用している他社製の光伝送装置にNECのトランスポンダを追加接続する試験を実施し、信号特性や実装効率、および省エネルギー性能で他社装置を上回る高い評価をInternexaから受けた。また、製品の技術的優位性に加え、トランスポンダのフィールドファイバ（実使用回線）への適用に際しての、NECの綿密および効率的な回線設計能力が高く評価され導入が実現した。

NECはこの機器納入を通して、ラテンアメリカの通信環境向上に貢献していく。

NEC 米州・グローバルプラットフォーム本部
TEL：03-3798-9984

CTC

「Oracle Exadata」を導入して 大和ハウス工業の業務推進システムを支援

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、日本オラクルと共に、大和ハウス工業（本社：大阪市北区）の業務推進システムが稼働するプライベートクラウド環境に、オラクルの高速データベース・マシン「Oracle Exadata Database Machine（以下、Oracle Exadata）」を採用したデータベースシステム環境を構築し、稼働を開始したことを発表した。

大和ハウス工業では、運用管理の負荷軽減やシステム規模を柔軟に拡張できるように、自社システムのクラウド環境への移行を推進している。業務推進システム「D-SMART」などの2010年に稼働したCTC構築のプライベートクラウド環境で、最終的には大和ハウスグループの約3万4千人が使用する予定だ。販売管理／物件管理などの営業機能、部材管理／施工管理などの技術機能、定期点検管理／履歴管理などのアフター機能とともに、ポータル／スケジュールなどの全社共通機能を含み、生産から営業、アフター、間接部門にわたる業務をサポートしている。

ビジネスの基幹を担うD-SMARTは、クラウド環境へ移行後も、活用範囲の拡大とユーザー数急増に伴いシステム負荷が増え続けていたことから、大和ハウス工業では、IT基盤の刷新を決定した。IT基盤刷新にあたっては、大量のトランザクションを極めて高速に処理可能で、かつ高い拡張性を持つOracle Exadataの採用を決定し、CTCによって構築刷新されたクラウド基盤に導入された。

今回のOracle Exadataの採用により、CTCの検証では、従来90分要していた月次集計のバッチ処理が6分に大幅短縮されるなど、大和ハウス工業の業務効率の改善に貢献している。

伊藤忠テクノソリューションズ TEL：03-6203-4100

日本オラクル

日本海ガスがオラクルの公益企業向け
料金管理アプリケーションを導入

日本オラクルは、日本海ガス（本社：富山県富山市）が、同社の公益企業向け料金管理アプリケーション「Oracle Utilities Customer Care and Billing」を採用し、新料金システムを稼働開始したことを発表した。

日本海ガスは、富山・石川県内の10万件のお客様のもとへ、都市ガス・LPガスを提供するガス事業会社だ。同社は、都市ガスやLPガスなどの各調定システムを統合して都市ガス・LPガスの業務プロセス共通化を実現するため、ガス事業における料金システムの全面刷新を決定し、その中核として2012年5月に「Oracle Utilities Customer Care and Billing」を採用した。

新料金システムは、検針、料金管理、請求、債権回収など、ガス事業会社の基幹業務を網羅的に支援することができる。現在、日本海ガスの料金部門、コールセンター部門、営業部門や保安部門などのお客様との接点をもつ部門のユーザー約200名が活用している。本システムの導入により、料金計算業務における効率化とガバナンス強化、料金メニュー拡充や法改正に迅速に対応できるシステムの柔軟性、および料金収納のクレジットカード対応などを実現している。

日本海ガスでは、今後、日本における電力の自由化をうけ、お客様への複数形態のエネルギーサービスの提供やそれによるビジネスモデルの変革が求められることを想定している。欧米の電力・ガス事業者で採用実績のある「Oracle Utilities Customer Care and Billing」を導入することで、これらの環境変化にも速やかに対応することが可能となった。なお、料金システムの全面刷新プロジェクトでは、アクセンチュアが業務設計およびシステム構築を担当した。

日本オラクル TEL：03-6834-4837

アクセンチュア

構築を支援したスルガ銀行の
新たな次世代戦略情報基盤が全面稼働開始

アクセンチュアは、スルガ銀行（本店：静岡県沼津市）の次世代戦略情報基盤の構築を支援し、全面稼働が開始されたことを発表した。

スルガ銀行では「ライフ アンド ビジネス コンシェルジュ<夢をかたちに>する、<夢に日付をいれる>お手伝い」を標榜し、リテールバンキング業務に軸足を据えたビジネスの拡大を図っている。また、県内商圏にとどまらず首都圏を含む大都市圏の顧客も積極的に獲得していくビジネスモデルを実践している。同社では、今後この取り組みをさらに加速させるための強力なIT基盤として、本戦略情報基盤を構築した。

スルガ銀行は本戦略情報基盤を活用することで、顧客の様々な属性情報や志向、将来起こり得るライフイベントをも加味し、デジタルを最大限に活用してマーケティングキャンペーンの高度化を図ることが可能となる。また、インターネット支店などの多様なチャネルを介して、日々移り変わる同社顧客の志向や属性情報をより迅速かつ精緻に捉えることができるため、顧客ニーズに合致した、さらにきめ細やかな商品並びにサービスを提案・提供するための、より強力な基盤になる。

本戦略情報基盤は、CRMアプリケーションと日本テラデータのデータウェアハウスを連携させ、さらにSAS社が提供するアナリティクス機能と、MicroStrategy社が提供するダッシュボードを介した柔軟な情報検索機能が組み合わせられている。また、モバイルバンキングによるトラフィック増加や連携システムの追加に対して適時にシステム全体の柔軟な拡張性の確保が可能であるとともに、アクセンチュアの持つ開発・実行アーキテクチャを採用することによってメンテナンスコストの削減にも貢献している。

アクセンチュア マーケティング・コミュニケーション部
TEL：045-330-7157

アシスト

「QlikView」のkintoneコネクタを めがねの「JINS」が採用

アシストは、サイボウズが提供する業務アプリケーション構築クラウド「kintone」と、クリックテック・ジャパンが開発する連想型インメモリ分析プラットフォーム「QlikView」を連携させた「kintone Connector for QlikView」を開発した。この連携ソリューションが、めがねの「JINS（ジンズ）」を運営するジェイアイエヌ（以下、JINS）に、店舗経営システムとして採用されたことを発表した。

JINSのブランド名でアイウェア事業を展開するJINSは、軽量メガネブームを巻き起こした「Air frame」や、パソコン用メガネという新習慣を広めた「JINS PC」など、新しいアイウェアを次々と世の中に送り出し、人々のライフスタイルにイノベーションを起こしてきた。JINSでは2011年12月より、店舗の売上分析やECサイトの分析にQlikViewを利用しており、店舗を統括するスーパーバイザーが、店舗や外出先からモバイル端末で商品の売上推移・購買客層をアドホックに分析したり、商品企画部門がPOSの売上データをドリルダウンして分析結果を商品発注に反映するなど、アクションにつながるBIプラットフォームとして事業経営に活用している。

データ分析を経営に活かす環境が成熟したJINSでは、店舗・本部の協働体制強化のために、システムを活用した業務改革をさらに推進することになり、そのための取り組みとして、従来では規格化されず利用されていなかった日々の業務トランザクションデータの徹底活用を目指すこととなった。そこでJINSでは、現場の情報を収集する仕組みとしてkintoneを採用し、kintoneに蓄積されたクラウド上のデータをkintoneコネクタでQlikViewに取り込み、オンプレミスのデータと連携して分析を行っている。

アシスト TEL：03-5276-5850

フォーティネットジャパン

アミューズがWebアプリケーション ファイアウォール「FortiWeb」を導入

高性能ネットワークセキュリティの世界的リーダーである、フォーティネットは、総合エンターテインメント企業のパイオニアであるアミューズが、同社のWebアプリケーションファイアウォール「FortiWeb」を導入したことを発表した。

アミューズは、有名アーティストを多数抱え、アーティストマネジメントやライブなどの興行、CDおよびDVDの版權事業などを主たる事業としているが、ここ数年は、自社で運営するオンラインショップを中心としたアーティスト関連グッズの販売、Webによるファンクラブシステム、電子チケットなど、ネットビジネスからの収益も増加している。そのため、堅牢なセキュリティ体制を構築することはアミューズにとって最重要課題であり、Webに公開されるシステムは全てセキュリティチェックを行うなど入念な取り組みを続けている。

アミューズでは、外部のプライベートクラウドサービスを利用して、機密性が高い情報を多く保有した基幹システムを運用している。これまでは社内向けに閉じた環境で運用していたが、アジア進出に伴う拠点の新設に柔軟に対応できるよう、インターネットアクセスを許可したことで最大限のセキュリティ施策が必要になった。同社は多層的なセキュリティ対策を実施しており、脆弱性診断によって発見された脆弱性は直ちに改修している。しかし、改修の漏れや将来の機能拡張などを考慮して、脆弱性をゼロにし続ける努力を続けながら、より一層のセキュリティ施策を構築するために、フォーティネットのWebアプリケーションファイアウォールの導入を決定した。選定では、Web改ざん検知機能や脆弱性スキャナー機能、優れたアンチウイルス機能を持っていることなどが決め手となった。

フォーティネットジャパン TEL：03-6434-8572